

9-4

24hシートとケアプラン

日々の暮らしがありその人らしい生活が成り立つ

個別ケア

連動

特別養護老人ホーム ちょうふ花園

発表者：介護職員 岡村 紀子

所在地：東京都調布市下石原3-44-1

TEL：042-484-2002

E-mail：kaen@tojinkai.or.jp

FAX：042-484-2286

URL：http://www.tojinkai.or.jp

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

社会福祉法人桐仁会 ちょうふ花園は、今年で6年目を迎えるユニット型施設です
80名の入居者が1ユニット10名に分かれ生活しています
その他では、デイサービス・介護予防事業・地域包括・居宅介護事業所があります

〈取り組んだ課題〉

○ケアプランと24hシートが連動されない

1. ケアプラン・24hシートの理解不足
2. アセスメントにばらつき
3. 作成したが活用されない

〈具体的な取り組み〉

1. ①職員一人一人がケアプラン・24hシートの目的・意味を理解するために施設内勉強会を職位ごとに実施（2ヶ月）
 - ・職員自身の24hシートを作成してみる
 →入居者の生活プランを立てるには日々の暮らしがあることを理解
 - ②（勉強会だけでなく）ユニット会議や日常の中でもリーダーが直接ユニット職員へ24hシート・ケアプランの意味について説明していく
2. 職員によって聞き取りに差があった入居者の情報量を底上げして均一化するために施設としてのアセスメントシートを作成
 - ・自分が暮らしていくために必要なことを列挙
 →130～160項目のアセスメントシートの完成
 - ・アセスメントについても聞き取り方や記入方法などについて勉強会を実施
3. ①過去3年間で、様々な書式を使用してケアを行ってきた。そうして現在の無駄のない書式を完成
 - ②以前は作成したことに満足感を得てそれで終わってしまっていた。だが、意味を理解した上で作成することで同時に活用方法も理解されてきた

〈活動の成果と評価〉

○ケアプランと24hシートの意味を理解しているかどうかは、以前のものと見比べると一目瞭然であり別物であった。
○施設としてのアセスメントシートを作成し、活用することにより職員によっての情報量の差もなくなったためその人らしい生活が見えてきた。

○作成する職員によって理解力や情報量にばらつきがあったためにケアプランと24hシートの中身の充実さも入居者によってばらつきがあったものが改善された。

○個別ケアを行っていく上で、こうして完成した24hシートとケアプランを活用することにより、職員によってのケアのばらつきも徐々に減りケアの統一がとれるようになってきた。また今までにはなかった認知症の方への声かけの内容なども具体的にシートにおとされケアの向上にも繋がった。

○今年の4月から、ケアプランと24hシートを1枚の書式に組み合わせご家族への提示が義務付けられた。このことでも24hシートとケアプランの連動がひと目で理解できるようになった。また今まで見えなかった入居者の暮らしが見えたとご家族より好評の言葉を頂いている

〈今後の課題〉

○ケアプラン・24hシートの意味を繰り返し伝えていく

○個々のマニュアルにならないよう日々の記録をさらに充実したものにしていく

○全職員が24hシートとケアプランへの理解をさらに深め、より充実したものを作成・活用していくために、年間目標の中に組み込まれユニット毎にも取り組みを進めている。

【メモ欄】